

燻付け



この技法は古時代から行われていました。鹿皮を染める際、鹿皮をクニコと呼ばれる間に貼らねておきます。型紙を白く染で茶染の色や模様を出します。

漆付け



模様の形である型紙を車の上へ塗り、その上から漆をのせます。その上から茶をのせます。型紙から車をはがすと、模様が出てきます。ムロでしぼらぐ乾かします。

更紗技法



型紙を使って一色から多色の模様を付けます。色ごとに型紙を替えて、染料のせいでいけます。この作業を何度も繰り返すと、白くなって、より華やかな色合いの模様となります。

模様付け
それぞれの技法を用いて車に模様を付けます。

荒断ち
車を無駄にしないように角キスを避けて、品物に合わせたおその大きさに切ります。

染色
1枚の大きな白い鹿の革を黒・紺・紫色等に染めます。
※糊技法では行いません。

検品
品物の仕上がりを確認します。

仕上げ
金具やフラスナー、型くずれ防止の芯等を付けて製品化します。

裁断・縫製
再度、正確な大きさに車を裁断します。
車の色、模様の位置や凸凹に注意して縫います。

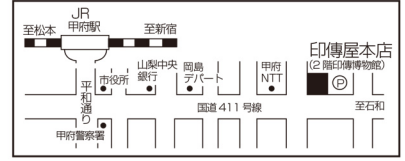
製造工程

印傳の品物が出るまで

博物館を活用した 夏休み自由研究プロジェクト



鹿の革で作った様々な古い資料が展示されているよ!
甲州印傳の作り方や歴史を学べるよ!



inden haku butsu kan
印傳博物館
〒400-0032 山梨県甲府市中央3-11-15
☎055(220)1621 (自動音声案内)
http://www.inden-museum.jp

印傳屋の創業

印傳屋上原勇七は、1582年(天正10年)に創業したといわれています。

天正 → 文禄 → 慶長 → 元和 → 寛永 → 正保 → 慶安 → 承応
→ 明暦 → 万治 → 寛文 → 延宝 → 天和 → 貞享 → 元禄 → 宝永
→ 正徳 → 享保 → 元文 → 寛保 → 延享 → 寛延 → 宝暦 → 天明
→ 安永 → 天明 → 寛政 → 享和 → 文化 → 文政 → 天保 → 弘化
→ 嘉永 → 安政 → 万延 → 文久 → 元治 → 慶応 → 明治 → 大正
→ 昭和 → 平成 → **令和**

以来400年以上の間、甲府の地で技術を守り続けています。昭和50年代からは新しいデザインの開発や様々な企業とのコラボレーションで時代のニーズに合わせた品物を作っています。

漢字クイズ

① 台切袋
② 早道
③ 背入
④ 巾着

古製品の名前

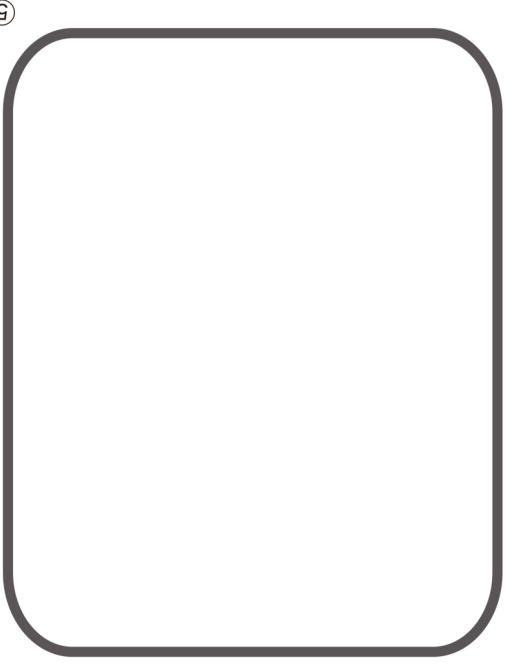
日本には四季があり、その変化を私達は自然の風物で感じながら生活しています。模様はその美意識の表れであり、折りや隙間が込められているものかたくさんあります。

模様にはどんな意味があるか調べてみよう!

どんな模様が「あきつ」ともいわれ、日本国の呼称「あきつ」に適しているといわれています。また、さんばは機織りや染め、人々のたかきに「鷹」を掲げた「鷹虫」とも呼ばれたことから、さんば模様は様々な武具や武具に多用されました。

太線を切ろう

アクト&メモ

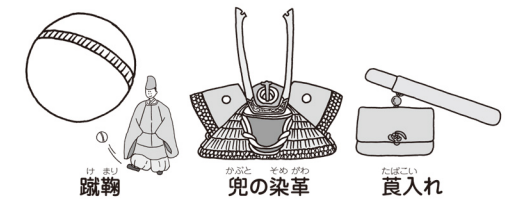


太線を切ろう

甲州印傳

鹿の革に漆などで模様を付けた工芸品を印傳と呼んでいます。

鹿の革は軽くて丈夫で加工しやすい等の特徴があります。大昔から様々な利用をされ、時代に合った品々が作られてきました。



甲州は自然が豊かで、鹿や漆も豊富に入手出来たことから甲州印傳の産地として栄えました。甲州印傳は経済産業大臣指定伝統的工芸品です。